

私たちの力で、沼津駅の高架化を実現しよう

かけはし

- 主な記事**
- 沼津駅の高架化実現に向けて着実に前進……………(1)
 - 主張 21世紀幕明けへの大偉業貫徹を！……………(1)
 - 沼津駅周辺総合整備の計画づくり……………(2)
 - 活動のあらまし(市民の会一年のあゆみ)……………(3)~(4)
 - 沼津市議会鉄道高架化促進特別委員会との懇談会の開催……………(4)
 - 寄稿・投稿 浜松駅高架化事業を視察して……………(3)
 - 取材レポート JR京葉線「新浦安駅周辺」の巻……………(4)
 - 私もひとこと 「早く進めて駅高架」……………(4)

編集・発行／沼津駅の高架化を実現する市民の会
 〒410 沼津市御幸町14-5 (沼津商工会議所内)
 TEL <0559> 31-1111代・FAX <0559> 31-1115



鉄道高架化実現に向けて大きく踏み出した沼津駅とその周辺

沼津市は県東部地域の中にあつて近年、近隣市町村の都市づくりが急速に進み、相対的にその機能や役割を低下させて来ています。しかし県東部における沼津市の立地条件を考え合わせるとき、即ち道路交通網の拠点、商工業や観光産業の集積などを客観的にとらえた場合その拠点性や中核性を保持し向上させる責務を負っていると言つても過言ではありません。

そのためには市の中心である沼津駅周辺において大きなネックとなつている交通問題の解決と、南北都市部の一体化と新たな都市機能を付与する高度な土地利用の創出を促進することが重要です。駅の高架化はそのための有力な手段であり、都市の拠点づくりに不可欠の事業であるといえます。

「市民の会」では昭和六十年代以降の国、県、市、市議会等の鉄道高架化実現への動きの中で、特に地元市、市議会と連携を密にするため、昭和六十三年に市民組織を結成し、市民サイドで促進運動を続けて来て

「市民の会」が発足して丸四年が経過しました。この間私たちは当然のごとくわがまち沼津市を中心に据え、広く東部地域を視野に入れつつ、その復活・再生・活性化の道を「駅の高架化」と位置づけその実現に向けて、市、市議会と密接に連携を保ちつつ運動を展開して参りました。平成三年度は県が事業主体となつて沼津駅の高架化事業の具体化の一環として測量調査に着手した新たな幕明けの年でありました。ここで市沼津駅周辺整備事務局よりの報告と取材による情報をお伝えします。

未来へのかけ橋 — その大きな夢と希望をのせて

沼津駅の高架化実現に向けて着実に前進

おられます。平成三年度には県は高架化事業を県の主体事業として調査事業を開始し、平成四年度には前年の約三倍に当る一億七千万円余りを計上してそのピッチを早めんとしています。市もこれに呼応した措置を即刻講じていると聞いています。

国鉄清算事業団跡地の主要施設であるいわゆる多目的ホールの計画にしても、沼津市では現在専門家集団に再検討を依頼しているようであつて、地取得の時期とのからみもあつて、全体的見地や整合性を保持しつつ作業がすすめられているとのこと。そして市では鉄道高架化のための基金積立てを昭和六十三年より開始し、関与するところでは平成四年度分も含めると総額百四十億円に達するといひます。

平成四年度では、組織的には市の沼津駅周辺整備事務局開発課の下に拠点開発室を設けるなど事業の実施に向けての体制をとのえています。「市民の会」ではこうした県、市、市議会などの動きを常に正確につかみ、市民サイドでこれに適確に処することのできるよう努力しなくてはいけないと思ひます。翼下各団体の力強く継続的なご理解とご支援をお願いしたいものです。

市民の会副会長 齊藤 政芳

蒸気機関車の黒煙に煤けた木造の駅舎、黒灰色が基調の、構内風景を集約した様な真つ黒な機関庫等の建物や、時折のどかに動き出す路面電車の鐘の音、ガードを越えた駅北は愛鷹山麓まで続く田園地帯、これは私の幼き頃の沼津駅周辺警見の印象である。

今日では片田舎の田園私鉄駅風景でしかないだろう。しかし県東部の産業経済・文化の中心都市を意識づけてくれた沼津駅である。この沼津市の玄関に降り立った時の、ときめき「は何故だろう。沼津の何が、あの様に強烈に当時の青少年に、夢と誇りの憧憬の街とさせたのだろうか。漫画で見る高架化された鉄路上を、流線型の高級車が輻輳している。二十世紀末と記された未来都市構想図は夢の又夢であつたにもかかわらず、この夢の都市構築は何十年後か知らないがその可能性を沼津は、青少年の胸中に予感させるだけの魅力を進んでいた。

主張

二十一世紀幕明けへの大偉業貫徹を！

世紀悼尾を締め括る責任者の使命として、市民一人一人が未来後継に夢と希望を与えて行かねばならないと思ひがいがだらう。今、沼津市の都市環境問題の殆どを解決できる沼津駅の高架化実現こそは、その最たる手段とはならないだろうか。県下ではすでに静岡、浜松が駅の高架化を果たし、都市づくりがなされている。次は県当局も沼津駅の高架化を決定し、県、市、JRと綿密な計画策定により着々とその計画を進捗させている。十数年に亘つた市民の熱願は、未来への計り知れない発展の可能性を乗せて、確実に実現への道を歩んでいる。



(原町商工会 会長)

沼津駅周辺総合整備の

計画づくりをすすめます

沼津駅周辺 総合整備事業

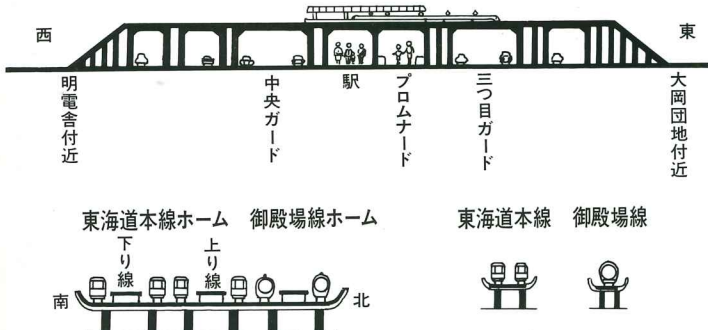
沼津市では、二十一世紀に向けて、「にぎわいと活力、ぬくもりを感じる都市づくり」を目指し、静岡県東部の中心都市にふさわしい、魅力と活力ある都市づくりに取り組んでいます。沼津駅周辺総合整備事業は、沼津駅周辺地域の大がかりな都市整備を進め、新しい時代に対応できる、県東部百二十万都市圏の中心都市として誇れる顔づくりを行ってまいります。

鉄道高架事業と 周辺整備事業

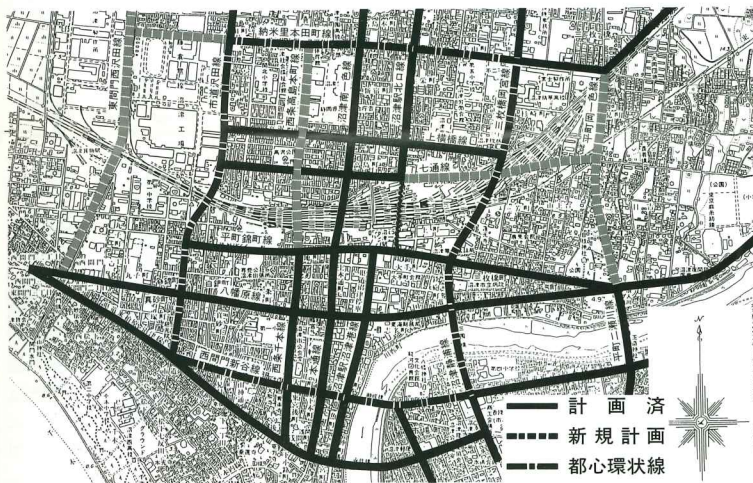
交通の円滑化、市街地の一体化を図る鉄道高架事業や幹線道路整備事業、さらには高架化に伴い発生する都心の広大な跡地に新たな発展のエネルギーを与える面的整備事業、そして都市活動、市民活動の拠点となる施設づくりが主な内容です。これらの様々な事業をタイミミングよく組み合わせて行うことにより、にぎわい、活力ある、次の世代に誇ることができる都市づくりをしていきます。

沼津駅周辺の鉄道高架化は、沼津駅周辺総合整備事業の中心となる事業です。この鉄道高架事業は、平成元年度に国、県、JRなどの関係機関によ

鉄道高架事業の概要(構想)

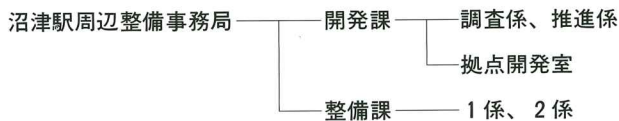


沼津駅周辺の道路網(構想)



市では、沼津駅周辺総合整備事業を強力に推進していくため、行政組織として下記のとおり沼津駅周辺整備事務局を設置しています。

※沼津駅周辺整備事務局の組織



って設置された沼津駅周辺総合整備手法検討委員会により、大岡団地付近から明電舎付近までの高架化区間約二・八キロメートルの構想案(左図を参照)が提案されましたが、市では、実現に向けて、全力を挙げて関係機関との調整を重ねてきました。このような中、平成三年度、静岡県による事業化のための調査設計がスタートし、実現に向けての第一歩を踏み出したところですが、さらに、

県では平成四年度予算においても、鉄道施設の基本的な設計検討などの調査費として、平成三年度に比べ約四倍の一億六千四百万円が計上されました。これにあわせて、沼津市では県と協力して、鉄道が高架化されることによる事業効果が最大に発揮できるよう、関連する道路整備や周辺市街地整備の具体的な計画づくりを平成三年度から実施しています。

引き続き、平成四年度では、駅周辺の道路整備の概略設計検討や土地地区画整理事業を中心とする面的整備の検討、鉄道施設の移転促進などを行う調査費として、一億七千三百万円余りを予算化しています。この計画づくりの主なもの一つに駅周辺部での道路整備があります。都心部の交通問題を解決し、新しい時代の土地利用にも対応できるよう、沼津駅周辺の道路網は、左図の

ように整備することになっています。これは、都心部をとり囲むように環状線の中を東西・南北方向に格子状の道路をつくることにより、都心部の交通の円滑化や土地利用の一体化を促進していくこととするものです。また、これらの道路整備や鉄道の高架化にあわせ、都心部にふさわしい土地の高度利用や利用転換、広域的なまちづくりに必要な拠点核形成の受け皿づくりをするため、鉄道沿線地域での土地地区画整理事業などの検討も進めています。以上、鉄道高架化、道路整備、土地地区画整理事業などの事業は、相互に関連して進められますので、今後三・四年度の間に、国や鉄道などの関係機関、関係する地域の皆さんと相談しながら、都市計画決定していくこととなります。

駅北地区の 先行的整備

沼津駅周辺の総合整備は、鉄道の高架化をはじめ様々な事業を組み合わせ、長期間にわたり、タイミミングよく実施していかねばなりません。市では、駅北口の国鉄清算事業団用地を含む駅北地区を沼津駅周辺総合整備の先行的事業として進めていくことにしています。

駅北地区の開発整備の方向としては、沼津駅周辺の開発を先導し、沼津市が県東部地域の母都市機能を果たしていくための新たな都市拠点を形成していくことです。この新たな都市拠点づくりを進めるためには、展示・コンベンション機能やシティホテル機能など、今の沼津市に不足している高次都市機能の導入が必要であり、市では、これらの機能立地の具体的な施設計画づくりを進めています。

このような施設計画づくりとあわせて、国鉄清算事業団からの土地取得などの調整を進めるため、平成四年度から市の行政組織を改正し、沼津駅周辺整備事務局開発課に「拠点開発室」を設置いたしました。

事業化に そなえて

沼津駅周辺総合整備事業には、膨大な事業費が見込まれています。このため、市では、昭和六十三年度から整備事業費に充てるため基金を積み立てています。平成四年度には新たに二十九億円を積み増す予定であり、その結果、基金の総額は約百四十億円に達します。

また、事業化にそなえて、土地の先行取得も行っていきます。(沼津市沼津駅周辺整備事務局開発課)

活動のあらまし

市民の会 一年のあゆみ

「沼津駅の高架化を実現する市民の会」(会長宇野三郎沼津商工会議所会頭)では、設立四年目である平成三年度において実施した活動を総括した。本会の目的とする「沼津市の中心市街地における都市交通問題の抜本的解決をはかるとともに、沼津市の活性化を促進することを旨とし、沼津駅の高架化を実現する」ことを目的に事業を展開した。陳情の実施、先進地の視察、各種広報活動の実施、調査の実施、まちづくりセミナーの開催、沼津市議会鉄道高架化促進特別委員会との懇談会の開催などである。

いずれも目的達成に向けての事業で、沼津市や沼津市議会と連携し、これを支援するための民意を結集する成果を生んだことと評価した。

特筆すべきことは冒頭でも触れたとおり、静岡県の平成三年度予算で沼津駅周辺の鉄道高架化事業に対する調査費が計上され、この事業に静岡県が事業主体となって取り組むこととなったことである。

活動の内容は次のとおりである。

県知事等への陳情

十二月二十六日、桜田光雄沼津市長、立木栄一沼津市議会議員、田上博沼津市議会鉄道高架化促進対策特別委員長に同行し、沼津駅の高架化事業の促進につき、斉藤県知事、石井県議会議長等に陳情を行いました。

今回は平成三年度を初年度として「沼津駅の高架化事業」が県が事業主体となって、測量調査事業がスタートし、具体化に向けて着実な歩みを続けていることにかんがみ、その経過を報告し、平成四年度以降の作業の進展を、官民挙げて強力に願

いする意味がありました。

先進地の視察

JR東海浜松駅高架化事業

- 第一回 ○とき 十月十七日・十八日
○参加者 沿線自治会長
- 第二回 ○とき 十月二十五日
○参加者 沼津市婦人学級連絡協議会会員



▶浜松駅前広場ロータリー駅ビルメイワン(右端の建物)とアクロシティ計画が進むスペース(前方)



斉藤県知事は「広域的な取り組みの中で実現させなければならぬ。地元として全力を尽くさねば」と語り、石井県議会議長は「全県のバランスの中で、実現に向けて努力したい」と語られました。

陳情には地元選出の渡辺県議会副議長、渡辺(岡)、多家、栗原の四県議が同行されました。「市民の会」では大橋、高村、永倉、栗田、荻生副会長以下役員、市議会山本副議長、市議会特別委員会委員、市担当部門、市民の会事務局員等が参加しました。

斉藤滋与史静岡県知事を訪ね、沼津駅の高架化事業および周辺総合整備事業の促進方を要請(県知事室にて)▼



▶浜松市担当者の説明を熱心に聴き入る視察参加の婦人学級生たち

浜松駅の視察はこれまでに四回実施したことになります。浜松駅の場合、事業主体は静岡県、総延長は五三三キロメートル、事業費は二百五十七億円。昭和三十六年三月に鉄道高架化のため客貨分離を陳情し、昭和五十四年十月の供用開始まで約十八年を要したといえます。



▶フォルテビル前より浜松駅ビル(メイワン)を望む

寄稿・投稿

浜松駅高架化事業を視察して

香南婦人学級 植山和子



沼津駅の高架化の話はこれまでもチラチラと耳にしていたが、私自身は電車に乗ることは年に一度あるかしら?なんて、殆ど興味はなかった状態でした。新幹線の三島駅も車で参りますし、駐車場がないので駅前広場に入ることもほとんどありません。が、このたび、沼津市婦人学級連絡協議会会長の深沢さんの熱心な働きかけと「沼津駅の高架化を実現する市民の会」のご配慮により、その先進地である浜松駅の視察に行く機会を与えていただきました。

二つに分れている沼津市の南北の往来が楽になるから、あざきり号での降客が良い結果をもたらしているとの報道ですが、沼津の顔となる駅として周辺の整備で沼津市の活性化に大きく貢献することに向けては、市民団体の果たした役割、③事業の内容等についていよいよ説明を伺いました。

昭和三十七年に期成同盟会を設置して昭和六十年十二月に完成、使用開始までの長期の大事業は気の遠くなるようなお話ですが、官民一体となって取り組まれた結果

なのです。道路交通の円滑化はもとより、人と車は完全に分離され歩行者は安全に歩けます。国際都市浜松の顔になるよう行政、文化ゾーンの整備についてもお話がありました。

平成六年の完成を目指しているアクロシティ計画の説明を野外で伺いながら、沿線土地利用の効率化、駅周辺の整備の良さ等事業の効果をもっと確かめながら感嘆したものです。時間をさいての遠鉄百貨店での楽しいショッピングも出来ました。

駅に来るのが楽しい! そんな雰囲気がいっぱいでした。そんなに遠くない将来、高架化された沼津駅に思いを寄せて帰路につきました。

広報啓蒙の活動

市民の会の活動は随時「新聞、テレビ」で報道し、広報紙「かけはし」を発行(全戸配布)、看板を掲出(香陵駐車場、商工会議所前、駅前ロータリー)、電光ニュース(駅前)を流し呼びかけを行いました。

電光ニュース(沼津タウンズポットと提携)での放映文は次のとおりです。「私たちの住む沼津市の活性化のために市民のみさんの力で沼



▶駅前ロータリー広告塔の看板

沼津市議会鉄道高架化促進特別委員会との懇談会の開催

「市民の会」では昨年十一月五日、沼津市議会鉄道高架化促進特別委員会（田上博委員長）と鉄道高架化事業の促進をめざし懇談会を開催しました。これは沼津市が推進する沼津駅高架化事業および駅周辺整備事業の促進に当り、それぞれの役割分担



懇談会の趣旨に沿い、意見交換の進行をつかさどる宇野会長、田上委員長、商工会議所役員室

まちづくりセミナーの開催



中沢一夫氏
(元浜松市助役)

市民の会では去る二月二十七日、ブケ東海において、「新しいまちづくりセミナー」を開催しました。このセミナーは毎年開催され、昨年は「JR東日本両毛線前橋駅の高架化事業」、昨年には「大阪府守口市京阪電鉄守口駅連続立体交差化事業」の事例研究を行なっています。今回は「鉄道高架化事業と駅周辺の整備事業」の先進地・浜松市を取り



▲卒直かつ活発な意見交換が行われた懇談会の全景—商工会議所役員室

を確認し、共通理解のもとに、目的に向って協力体制を強化しようとするものです。席上宇野会長、田上委員長が挨拶し、市当局から事業の進行状況の説明をうけたのち、双方が率直に意見の交換を行ないました。その結果、広報啓蒙活動の重要性や懇談会の継続開催の必要性などを確認しました。

あけ、講師にこの一連の事業の推進役をつとめられた元同市助役、中沢一夫氏（現浜松市公園緑地協会理事）を招き、詳細にわたって説明をうけました。

浜松駅の場合、事業主体は静岡県高架延長は五・三三km、事業費は二百五十七億円、昭和三十六年三月に鉄道高架化のため客貨分離を陳情し、昭和五十四年十月供用開始まで約十八年を費やし完成をみています。浜松の特長は同時に遠州鉄道の高架化事業にも着手し、昭和六十年二月に供用開始し、一体的な効果をねらったことです。

中沢氏は説明の中で「高架化事業および周辺の再開発事業をすすめる時代の背景や考え方が異なるものの、これらの事業は都市の顔づくり

であり、活性化に大きく貢献するものである。官民が一体となって取り組む必要があり、双方にけん引車的役割をもつ人材が欠かせない。」と力説されました。事業の効果はおよそ次のとおりです。

第一点、都心での道路交通の円滑化がはかられ、貨物ヤードが撤去されたこと。

第二点、土地画整理事業で創出され、西街区にイトヨーカ堂、駅ビル、遠鉄百貨店、第三セクターのフォルティビルと続き、東街区はアクトシティとしてすでに着工、一九九四年に完成する予定。

第三点は、駅前広場、アクアモール、ギャラリモール、サンクングアデンが整備され、浜松の顔づくり浜松らしさが創出されたこと。

第四点は、JR、遠州鉄道とも大幅な線形の改良により利便性が大幅に向上した点。

第五点は、周辺地区が名鉄ホテル第一生命ビルが市の再開発事業を皮切りに、地区整備を促していること、等であります。いずれにしても、浜松の場合一連の事業により、都市の構造が根本的に整備され、次なる飛躍への基盤固めが完成したと言えます。

取材リポート

リポーター
事務局 山室 公義

JR京葉線(新浦安駅周辺)の巻

◎都市の輪かく

昭和五十九年改訂の基本構想において「緑あふれる海浜都市」を目指しています。埋め立て事業（第一期昭和四十年九月、第二期工昭昭和四十七年十月）の継続で、市域を町制施行時の三・八倍とし、埋め立て地が市全体の%を占めるに至っています。人口も町制施行時（明治四十三年）の八千四百七十五人から現在は十一万四千九〇二人と増え、将来は十七万が見込まれています。

昭和四十四年地下鉄東西線開通、昭和五十八年四月東京ディズニーランドオープン、昭和六十二年十二月京葉線が開通しています。

構想では、住宅の建設、大型遊園地の建設、鉄鋼流通基地の建設を目標としています。そして現在従来の首都圏のベッドタウンから、生活・文化・生産の三つの要素が調和する街へと都市の性格を変えつつあります。

◎開発のインパクト

新浦安駅を中心とするA地区の開発のインパクトは、住宅建設による人口増加、京葉新線の開通、東京ディズニーランドの開園、商業、業務施設の建設等により大きくかつ急速にすすんでいます。将来人口十七万人、商圏人口三十万人と言われるこ



▲新浦安駅、駅前広場より新商ダイエー棟（ショッピングプラザ新浦安ビルを望む）



▲ショッピングプラザ新浦安より駅前広場の西側に立つショッピングモール「モナ」明治生命新浦安ビルを望む

北浦(北とびあ)の巻

新しい時代の東京の北のシンボル「北とびあ」は、北区産業の発展と区民の文化的水準の高揚を目的として建設されたといえます。

地上七階の低層棟と十八階の高層棟から成り、スケール感の中にもシャープなデザインが光る外観は二十一世紀北区のシンボルにふさわしいとの評をえています。



▲JR王子駅貨物跡地に立つ北区のシンボル(北とびあ)高層棟

内部にはクラシックコンサートも可能な「さくらホール」、科学館、プラネタリウム、飛鳥ホールをはじめ、展示ホール、産業情報センター各種集会室などが完備しています。北区の「産業振興」、「文化振興」、「区民サービス」の三つの機能が新しい時代の産業活動と豊かな消費生活の創造を約束しているようです。

私もひとこと
早く進めて駅高架
婦人学級もくせい
立田 初美



昨年十月縁あって「市民の会」の主催する浜松駅高架化事業の視察会に参加し、意義のある一日を過ごすことができました。

浜松の場合、昭和三十三年から約三十年かけて、高架を完成、遠州鉄道の高架も併行して進めた由、そこには周辺住民の理解と努力の力があつたからこそその印象をもちました。

浜松、静岡と沼津は県の東、中、西の雄としてとかく比較されることが多いですが、大きく水をあけられているように思います。街の南北交通の便がよく、駅周辺に文化センター、多目的ホール、美術館、博物館、ショッピングセンター、駐車（輪）場など備えられたら、人も集まるし、生々として来ると思っています。

産、学、官、民が力をひとつにして、高架化事業を単なる構想でなく実現するよう努力いたしましょう。

編集後記

年一回発行の広報紙「かけはし」 「市民の会」の一年の活動の足跡をしますものである。活動の様子は新聞、テレビ、あるいは各構成団体の長から下部会員に伝達され、広報啓蒙され、理解と協力を求め、協議、検討の題材となつているだろうと推察される。

しかし下部浸透の媒体が確立しているか否かがこれを左右する。団体によつては「会報」なるものがあつて全会員に流されている。その意味で意思疎通が図られているといえる。この「かけはし」も、年二回発行を目ざしたいものだ。

- 編集委員(順不同)
- 山室 公義
 - 金井 隆直
 - 秋山 精太郎
 - 荻生 昌平
 - 伏見 博行
 - 山川 勝